

令和7年度第3回浜松市美術館協議会会議録

- 1 開催日時 令和8年2月24日(火)
10時00分～11時30分
- 2 開催場所 浜松市美術館2階 応接室
- 3 出席状況
会 長 今 田 徹
委 員 荒 川 朋 子
委 員 伊 内 弘 康
委 員 伊 藤 典 明
委 員 笥 有 子
委 員 佐 藤 聖 徳
(事務局職員)
浜松市美術館長 飯 室 仁 志
秋野不矩美術館長 鈴 木 英 司
美術館長補佐 徳 増 宏 之
美術館副主幹 市 川 智 久
美術館副主幹 若 澤 久 実
美術館主任 安 岡 真 理
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容 (1) 令和8年度浜松市美術館事業計画について
(2) 令和8年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について
(3) その他
- 6 会議録作成者 市川 智久
- 7 記録の方法 要点記録

8 会議の記録

(事務局) 令和7年度第3回浜松市美術館協議会を開催する。

協議会開催にあたり、石上委員と鈴木委員が所用により欠席となるが、浜松市美術館協議会要綱第5条に基づく委員過半数以上の委員出席であるため、本会議開催要件を満たしたことを報告する。

(事務局) はじめに、次第の2、今田会長よりご挨拶をいただく。

(今田会長) 本日は、今年度を実施した展覧会を振り返りながら、来年度の展覧会実施についてご意見をいただきたい。活発な議論をお願いします。

(事務局) 続いて、次第の3、嶋野文化振興担当部長が所用により欠席のため飯室美術館長から挨拶する。

(飯室館長) 委員の皆様から美術館運営につきまして多くのご意見をいただきお礼申し上げます。いただいたご意見を参考に、特に展覧会の広報につきましては来館者増に向けて継続的に進めているところである。本日は、委員の皆様から忌憚のないご意見をお聞かせ願いたい。

(事務局) ここからは今田会長に進行をお願いします。

(今田会長) 次第の4(1)、令和8年度浜松市美術館事業計画について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 浜松市美術館2025年度展覧会スケジュールをご覧いただきたい。残念ながら今年の1月にご逝去された、中村宏を春に開催する「足立美術館展」と夏に開催する「いま、私は現代アートと出会う」展と同時開催し、第3展示室にて紹介する。4月4日から開催する特別展「足立美術館」展では、足立美術館が誇る日本画コレクションの中から、静岡ゆかりの横山大観や竹内栖鳳をはじめ、菱田春草、上村松園、橋本関雪、安田靉彦など、明治期から昭和期にかけて活躍した近代日本画の名手たちの作品を紹介する。6月20日から開催する企画展「いま、私は現代アートと出会う」展では、ある一人のコレクターが蒐集した膨大な現代アートコレクションの中から、草間彌生やバンクシーなど国内外の39人の作家による約70点の作品を紹介する、浜松市美術館発の大規模な現代アート展である。現代アートは難解なものと思えられがちだが、色や形、風景といったシンプルでわかりやすいキーワードで構成することで、現代アートに馴染みのない方でもアートの楽しみ方の発見する場となることを目的とする。10月10日から開催する企画展「みほとけのキセキⅢ」展では、遠州地域(浜松、磐田、袋井、湖西)と東三河地域(豊橋、新城)の国指定重要文化財や県指定文化財の作例に加え、継続的な調査研究により近年新たに発見されたり価値が見いだされた作例、価値の再評価がなされた作例を積極的に取り上げる。そして、「みほとけのキセキ」シリーズでは初となる駿河地域にも調査研究のフィールドを広げ、遠州・三河地域の仏像と駿河地域伝来の仏像を併せて展示することで、その特徴を比較検討したい。説明は以上である。

(今田会長) ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

(伊内委員) 足立美術館展は多くの人が来館し賑わうのではないか。

(今田委員) 来館者が多くなる心配はないか。

(事務局) 土日は外に並ぶ可能性はある。

(伊藤委員) 足立美術館の「中根金作」は有名である。湖西市で中根金作を顕彰する活動が盛んに行われているが、湖西市と連携する仕組みづくりができれば良い。

(筧委員) 足立美術館展は若い世代がどう反応するかが気になる。現代アート展はどの程度来館を予定しているか。

(事務局) どの作家を取り上げるかで来館者数は大きく変わる。また、作品の中から自由に選定させていただいた。浜松初となる現代アート展であって、誰でも知っている作品である草間彌生やアンディーウォーホル、バンクシーなどを全面に出して紹介する予定である。

(伊藤委員) 現代アート展は浜松発の展覧会なのか。浜松発をPRしたらよい。

(事務局) 浜松から全国を巡回する。

(筧委員) 前売り券はどの程度売れるのか。

(事務局) 前売り券の割合は、コロナ禍以前は総来館者数の1割であったが、コロナ禍後の前売り券は減少傾向にある。発券する手間等を省くため、今年度からチケットフリーのプレイガイドを導入予定である。

(荒川委員) 世界的にチケットレスが進んでいる。その一方で、チケットを集めるコレクション感覚もあるので、うまく両輪を使い分けていけると良い。みほとけのキセキがⅢまで開催できることが素晴らしい。来館者を見込める施策の事前検討が必要。3つの展覧会の中でもみほとけ展は大事なポジションと感じている。静岡県の文化財を見つめなおす作業を浜松市美術館を中心に続けてほしい。

(事務局) 1年間に開催する展覧会の中では、地域の文化財、浜松市美術館が収蔵している資料を活用する展覧会を少なくとも1回は開催していきたいと考えている。

(伊藤委員) みほとけのキセキⅠとⅡはいつ開催したのか。

(事務局) みほとけのキセキⅠは令和3年度に開催し、多くの重要文化財を展示した。みほとけのキセキⅡは令和5年度に開催し、重要文化財の展示はなかったが、地域の知られざる仏像を展示した。みほとけのキセキⅢは重要文化財を含め広範囲の仏像を対象とした展覧会になる。

(伊藤委員) みほとけ展をきっかけに借用先であるお寺に訪れる方もいるのか。

(事務局) 訪れる方はいました。以前は御朱印帳を活用し、連携した企画を実施した。今回もゆかりの地域との連携を含めた仕掛けを検討している。

(伊藤委員) 観光を含め広範囲での連携は、ぜひ情報を共有させていただき協力していきたい。

(佐藤委員) 現代アートの著作権は難題である。浜松発の巡回展覧会はとても素晴らしい。チケットレスも今後急速に進んでいくことが予想できるが、紙のチケットも収集されている方もいるので存続させてほしい。広報もインフルエンサーを活用しYouTubeで発信してほしい。美術館としてのコンセプトを持って、動きの速いデジタル化対応が必要である。

(筧委員) 図録の販売状況はどの程度か。

(事務局) 展覧会ごとに異なるが、今年度開催した「躍動するアジア陶磁」展では一日あたり2冊程度であった。グッズが豊富だと図録の販売が減少傾向にある。

(今田委員) 中村宏さんの展覧会は、ぜひ今後も続けていってほしい。

(今田会長) 次第の4(2)、令和8年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について事務局から説明をお願いします。

(鈴木館長) 来年度は特別展3本と所蔵品展5本を予定している。特別展「中谷ミチコ」展の内容を簡単に紹介すると、簡単に表現すると作品はすべてくぼんでいる。粘土で型を作成し、くぼんだ箇所に着色をする。私たちの眼からはくぼんだ

箇所が立体に見える。秋野不矩との共通点は、存在しないものを存在しているかのように感じる作品であり、不確かさを問いかけると同時に、目に見えるものを超えた存在をも感じさせる。今後企画を開催するにあたり、これまで空間的にアートを展示してこなかったが、建物の良さや空間的の良さなど展覧会を通じて注目を浴びるような作品と空間が響きあう展示を実施していく。次に「猫愛に溺れる」展は、秋野不矩は猫好きであり、加山又造とも猫を介したつながりで交流があったことから、猫の毛並みや愛らしい表情をテーマとした作家を一堂に集め企画した近現代日本美術における猫表現の多様性と魅力を紹介する展覧会である。令和8年度に静岡県内で猫展を企画している美術館が3館ある。全国的にも猫展を開催する美術館が多いと感じる。次に「京の百景」展だが、かつて京都府では美しい京都の姿を後世に伝えていくため、京都ゆかりの日本画家に作品制作を依頼した。その中から京都を拠点に活躍した上村松篁など、画壇を代表する作家たちが描いた選りすぐりの作品を紹介する。また、日本の昔話をテーマとして制作した絵本原画など、日本を題材に描いた作品も展示する。

所蔵品展では、秋野不矩生誕120年に向けて秋野不矩の人となりを紹介する。1回目の「慈」では、対象をやさしく温かく愛おしむ心をテーマとした作品構成とした。次に「悲」では、悲しい内容ではなく共感をもって対象に寄り添う心をテーマとし、どう共感し表現に至ったかを検証していく。「喜」では、周囲の出来事や現象を自分事として受け止め喜びを見出す心をテーマとしている。中谷ミチコ展の後に廃墟や遺跡の表現を展示することにより、特別展と所蔵品展の関係性が見えてくる。「捨」では、表面的な変化や感情に囚われず、広い視野で洞察しようとする心をテーマとした。最後は「空」だが、相互のつながりや因果から、世の理を自身の気持ちや感覚を通じて感受する心をテーマとした。これまでは絵本原画を展示する機会が少なかったが、「慈」「空」では秋野不矩の画業を紹介していく。

(今田会長) ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

(今田会長) 彫刻作品を展示するのは驚いた。中谷さんの出身はどこか。

(鈴木館長) 三重県出身である。

(荒川委員) この展覧会では日本画は展示しないのか。

(鈴木館長) 秋野不矩作品も展示する予定である。

(今田委員) 展示は中谷さんが考えるのか。

(鈴木館長) 中谷さんの考えでは秋野不矩作品と並べて展示する予定である。

(今田委員) 一寸法師も京都が舞台なので、「京都百景」の伏線で一緒にできればよい。

(筧委員) 建築としての素材感が特徴的で、作品とリンクさせて感じさせるところがよい。絵本だが、秋野不矩作品はどのくらいあるのか。絵本展を次の若い世代に向け実施することにより、若年層や家族層の来館に繋がるのではないか。絵本を通じて秋野不矩美術館とリンクさせて親しみのある美術館になるのではないか。

(鈴木館長) 絵本は10冊程度が出版されているが、アメリカ合衆国のみで出版されているものもある。

(荒川委員) 音楽コンサートは継続していただきたい。空間を意識した展示も期待する。雰囲気壊さない範囲で公道から美術館入り口までの道のりにおいてアプローチの仕掛けも必要と考える。猫愛に溺れる展で40名の作家とあるが、秋野不矩との関係性や方向性が明確になると秋野不矩の立ち位置が分かりやすくなるのではないか。

(鈴木館長) 秋野不矩の会からも立ち位置を明確にしてほしいと要望がある。展覧会の中で、秋野不矩世代から現代作家までの立ち位置を示すことを考えている。

(今田委員) 中谷さんから見える秋野不矩とは、どういう思いで作品を評価しているのか聞いてみたい。

(佐藤委員) 中谷さんの考える造形と空間、我々の秋野不矩作品に関する感想、リンクさせるために言葉でつなぐのか、それとも別の意味合いでリンクさせるのか、絵画と彫刻はつなぎ方が多数存在する。美術作品に対しての裏付けや関係性の検証を取る必要があり、キーワードだけに流されると危険である。

(伊藤委員) 協賛とはどのような形態で実施しているのか。例えば来館した方へのノベルティを協賛という形で提供していただくとよい。のぼり坂について、下の駐車場から歩くことがネックである。電動カート実験を試みるのもよいのでは。

(今田委員) その他、質問意見はあるか。

意見、質問等の発言なし

(事務局) 令和7年度第3回浜松市美術館協議会を閉会する。

9 会議録署名人 今田会長